

## ブドウ新品種「エーデルアーリー」の栽培特性

佐々木 誠 二・川 村 哲 朗

(岩手県園芸試験場大迫試験地)

Characteristics of a New Grape Variety 'Edel Early'

Seiji SASAKI and Teturo KAWAMURA

(Ohasama Experimental Farm, Iwate Horticultural Experiment Station)

### 1 はじめに

岩手県のブドウ栽培の品種構成は、「キャンベル・アーリー」が約75%を占めているが、近年の価格動向は、同一品種であっても早期に出荷されたものほど高価格で取り引きされる傾向にある。

新品種「エーデルアーリー」は、「キャンベル・アーリー」よりも早熟・大粒であるため、価格上有利であると共に、収穫・出荷等の労力配分上も経営改善に役立つと考えられる。

この品種は、岩手県園芸試験場大迫試験地（以下、大迫試験地という）圃場で栽培している「キャンベル・アーリー」（1956年定植，台木：グロワール ド モンペリエ）の枝変わり種で、1985年に存在を確認した。

ここでは、その特性について、主に「キャンベル・アーリー」と対比して、報告する。

なお、「エーデルアーリー」は1993年3月に種苗登録され、また、岩手県の奨励品種に採用されている。

### 2 試験方法

(1) 大迫試験地において、1985年より原木について、さらに、1988～1991年の4か年、自根樹及び高接ぎ樹（中間台：「ナイアガラ」，台木：テレキ5C）について特性調査を実施した。

(2) 現地試験として、北上市（岩手県園芸試験場本場）において、1989～1990年の2か年、普通接ぎ木樹（台木：ウイルスフリーテレキ5BB）について、また、江刺市において、1989～1991年の3か年、自根樹について、各々、特性調査を実施した。

### 3 試験結果及び考察

#### (1) 樹勢

「エーデルアーリー」の樹勢は中程度であるが、「キャンベル・アーリー」よりもやや弱く、樹冠の拡大も遅い。

#### (2) 幼梢、熟梢及び成葉

幼梢先端の色は紫赤～紫で先端の綿毛の密度は極密生である。熟梢の色は褐色～暗褐色で太さは8mm程度である。成葉の葉身の形は五角形で裂片数は3片と5片が混在する。

#### (3) 花穂及び果房

花穂の着生数は2～3と多く、蕾は「キャンベル・アーリー」よりも大きい。果房は、原木では樹齢が進み樹勢がよわまっているため232gと小さかったが、北上市で267g（2か年平均）、江刺市では327g（3か年平均）となっており（表1，2），300g程度の大きさである。果房の形は有岐円筒形で、果梗の太さは2.5mm程度である。

#### (4) 果粒

果粒は円形で、大きさは8g程度と「キャンベル・アーリー」よりも約2g大きい（表1，2）。果皮色は紫黒色で容易に着色する。果皮は厚く、果皮と果肉の分離は容易、肉質は塊状である。

糖度は、平均で13.9～15.3%、酸含量（酒石酸換算）は、平均で0.53～0.68g/100ml、の間となった（表1，2）、「キャンベル・アーリー」と比べて、酸がやや多めの傾向である。

フォクシー香があり、渋味はほとんど無く、多汁で、食味は「キャンベル・アーリー」と似ている。ただし、成熟期の果肉の軟化、酸の低下が「キャンベル・アーリー」よりも早いので、収穫の際は遅れないよう注意が必要である。

#### (5) 発芽期、開花期、及び成熟期

発芽期は4月下旬～5月上旬、開花期は6月中～下旬で「キャンベル・アーリー」とほぼ同時期である。しかし、8月20日頃には糖度が14%程度まで上がり（表3）、成熟期は、「キャンベル・アーリー」より15～20日程度早い、8月下旬頃である（表4）。

表1 「エーデルアーリー」及び「キャンベル・アーリー」の果実品質（大迫試験地）

品 種 名	房重 (g)	1粒重 (g)	酸度 (Brix%)	酸 (g/100ml)	調査日 (月・日)
エーデルアーリー（原木）	232	7.7	15.3	0.53	8・28
キャンベル・アーリー	337	5.8	15.4	0.43	9・16

注. 1) 1985年～1992年の8か年平均。

2) エーデルアーリー（原木）：1956年定植キャンベル枝変わり（台木：グロワール ド モンペリエ）  
キャンベル・アーリー：1949年定植（台木：グロワール ド モンペリエ）

表2 北上市(岩手園試本場)及び江刺市における果実品質

場所	年次	品 種 名	房 重 (g)	1粒重 (g)	糖 度 (Brix%)	酸 (g/100ml)	調査日 (月・日)
北上市 <sup>1)</sup>	1989	エーデルアーリー	294	7.5	13.8	0.69	9・5
		キャンベル・アーリー	216	5.1	12.3	0.90	9・6
	1990	エーデルアーリー	240	7.8	14.6	0.59	8・24
		キャンベル・アーリー	256	5.8	13.7	0.56	8・31
江刺市 <sup>2)</sup>	1989	エーデルアーリー	331	7.3	14.0	0.69	8・25
		キャンベル・アーリー	235	5.1	12.4	1.42	8・25
	1990	エーデルアーリー	315	8.0	13.8	0.64	8・20
		キャンベル・アーリー	388	6.0	14.6	0.44	9・4
	1991	エーデルアーリー	335	8.0	14.0	0.70	8・22
		キャンベル・アーリー	361	5.8	13.0	0.87	8・22

注. 1) エーデルアーリー: 1986年定植(台木: ウイルスフリーテレキ5BB)

キャンベル・アーリー: 1981年定植(自根)

2) エーデルアーリー: 1987年定植(自根)

キャンベル・アーリー: 1973年定植(自根)

(6) 花振り及び裂果

花振り性, 裂果性は‘キャンベル・アーリー’並であり, 無核果粒の混入もほとんど見られない。

(7) 果実の日持ち性等

果梗と果粒の分離は容易で, 果実の日持ちは常温で4日程度と‘キャンベル・アーリー’とほぼ同等である。

(8) 耐寒性及び耐病虫害抵抗性

耐寒性, 耐病虫害抵抗性ともに‘キャンベル・アーリー’並である。

4 ま と め

‘エーデルアーリー’は‘キャンベル・アーリー’と比べて, 成熟期が15~20日程度早く, さらに, 果粒は約2g大きいという有利な特性を備えている半面, 樹勢が弱めであり, 樹冠の拡大が遅いという面も合わせ持っている。

過着果になると, 着色不良や熟期遅延を招き早生種の有利性を損なうだけでなく, 樹勢衰弱を引き起こしやすい

表3 果実糖度13%及び14%到達日(大迫試験地)

品 種 名	13%	14%
エーデルアーリー(原木)	8月17日	8月22日
キャンベル・アーリー	9月4日	9月10日

注. 1) 1985~1991年の7か年平均。

2) 供試樹は表1と同じ。

表4 ‘エーデルアーリー’及び‘キャンベル・アーリー’の生態(大迫試験地)

品 種 名	発芽期 (月・日)	開花期(月・日)			成熟期 (月・日)
		始	盛	終	
エーデルアーリー(原木)	5・1	6・18	6・21	6・23	8・25
キャンベル・アーリー	5・1	6・18	6・20	6・22	9・14

注. 1) 1985年~1992年の8か年平均。

2) 供試樹は表1と同じ。

め, 実際の栽培に当たっては適正な着果量を守るよう特に注意する必要がある。